



とさしみず ジオめぐり

土佐清水がもっと楽しくなる/
ジオ視点の土佐清水案内



ふーん、すごい努力をしたがやね。



でも、その努力にかかわらず、クロマツの維持は困難で、最終的に伐採されることになったんだ。



ええ…悲しい…

大岐の浜 《前編》 海だけじゃない！ 大岐の浜林のヒミツを探る！



今回、ジオパーク少年は土井、森口専門員と大岐の浜にやってきました。



おお！大岐の浜！いつ見ても雄大な砂浜。



大岐の浜は、砂浜の景色も素晴らしいけど、海岸林も見どころだよ。ほら見て、浜に沿って幅100mもの広葉樹の浜林が1.3kmも続いているよ。



ほんまや〜、木でモクモクしちゃうね。近くで見たい。



じゃあ、せっかくだから、真ん中の駐車場から浜林を通して浜に出てみよう。

—— 3人は大岐の浜の駐車場にやってきました。



こうやって近くで見ると、大きな木もあって、鬱蒼とした森やね。



高さ25mを超えるクスノキやタブノキがあって、その下にヤブニッケイやバリバリノキといった低い木、そして、その下には幼木やシダ類が観察できるよ。あと、カカツガユやタチバナという希少種も生育しているよ。



そういえば、砂浜には松っていうのが、日本の浜辺の風景のイメージやけど、ここは広葉樹ながやね。



昔は大岐も松林だったんだよ。この森の起源は江戸時代に植林されたクロマツの防砂林だったと言われてるよ。でも、クロマツの維持は大変だったんだ。1940年代から日本全国でマツ枯れ病という病気が流行って、ここも大打撃を受けたんだ。枯れた木を伐採したり、新たにクロマツを植林したりと松林の維持のために頑張ったんだけど、病気や大岐の強い風の中で、苗は定着しなかったみたい。それから、1960年代には砂浜と浜林の境界あたりに長さ1km、高さ2mほどの堤防が築かれたんだ。今では、ほとんど砂に埋もれているけど北の端の方にその名残が見えるよ。



でも、それまでにクロマツの間で芽吹いて成長していたクスノキやハゼノキの若い木が、クロマツの伐採によってさらに成長して、今のようなモクモクした照葉樹の森林になったんだよ。



へー、この浜林にはそんな歴史があったがやね。砂浜には松ってイメージがあったけど、広葉樹林も木漏れ日がキレイで幻想的やね。



そうなんだよ。この鬱蒼とした森をくぐり抜けて、白い砂浜と青い海が見える光景は最高だよ。海に出るワクワクした気持ちを高めてくれるよね。あと、今、大岐の浜林は防災・減災の面で注目されているんだ。



へー、なんで？



海岸林は防風・防砂の役割だけでなく、津波に対しても、減災の効果があることが2011年の東日本大震災の時に確認されたんだ。



森が波をせき止めて時間稼ぎをしてくれるがやね。



そうだね。でも、海岸林の維持はとても大変で、かつての大岐の松林のようにマツ枯れ病への対策や伐採、さらに下草の刈り込みなど、とても手間がかかるんだよ。これに対して、大岐の浜林のような自然の森林でできた広葉樹の海岸林は基本的に手入れの必要がないんだ。人口減少や少子高齢化が進む地域において、維持の手間がかからないというのは重要だよ。あと、クロマツの海岸林より森林の密度が高いから、防風や津波の減災効果が大きいことが期待されていて、大岐の浜林をはじめ四国内の数カ所の海岸林で研究が行われているよ。



へ〜、大岐の浜林がこれからの海岸林の維持や減災へのモデルケースになるかもしれないがやね。



そうそう。あと、浜林には豊かな生態系も築かれていて、いろんな昆虫もいるみたいで、その調査も行われているところだよ。



すごーい。大岐の浜林のヒミツもわかったし、次は浜の成り立ちを知りたいーい。土井さん、解説お願いします。



OK、まかせて！でも、今月はこの辺で。来月号で続きを解説するね。

→次回、後半に続く

